Special Program・特別プログラム

神宮前Barラジオの時空間が、蘇ったような5日間。

カウンターに立たれた尾崎浩司さんからの“教え”について、スタッフがレポートします。

イベント前日

今回の「山のシューレ」の目玉企画のひとつは、観季館の「Bar ラジオ」が復活して、そのカウンターに尾崎浩司さんが立たれることだ。いったいどのように、あの伝説の空間が復活するのか。この 5 日間、私たちもたいへん楽しみにしている。

いよいよ尾崎さんが東京から那須に見えられた。二期倶楽部に到着して、さっそくバーの営業に関するミーティングが開かれる。現場に立つやいなや、道具の配置、オペレーションの流れなどの指示が具体的に次々と発せられる。すでに尾崎さんの頭のなかでは、完全なシミュレーションがイメージされているようだ。

一日目

初日、店は 18 時からスタートした。小林、竹節 2 名のバーテンダーが一緒にカウンターに入らせていただく。Bar ラジオの独特の雰囲気が空間にみなぎってくる。

いよいよ名バーテンダー尾崎浩司の世界が幕を開ける。仕事着に身を包んだ尾崎さんはカウンターに入る前に一礼し、ゲストのお一人ずつに声をかける。「雨があがってよかったですね。どうぞ、ごゆっくりしていらしてください」。心からサービスをしているとこういう顔ができるのかと、さっそく勉強になる。

二日目

初日を終えて、尾崎さんからサービスの流れ、カウンターのなかでより早くオーダーに対応するための細かい改善点などの指示をいただく。カクテルを作るスピードはもちろん、何かを求めているゲストの表情をくみとる早さ、視野の広さ、忙しい時でもゲストを楽しませる軽快なトークまで、その対応のすべてに感嘆する。カウンターのなかに並んで立たせてもらうだけで勉強になる。バーテンダーによって演出される雰囲気の大切さをあらためて感じた。

三日目

私も少し慣れてきた。すると、尾崎さんの仕事の注意深さに改めて気がついた。何気ない仕草、オーダーのカクテルを作りながらも空いたグラスにいち早く気づき、そのゲストの味の好みや次に求めているカクテル、または一休みしてお水が欲しいか、席を立とうとしているのかなど、全方位に気をくばっている。

尾崎さんの気配り、判断は、窓越しのテラスにも及んでいる。「やっぱりお顔を見てカクテルをつくりたいのですね。同じものを注文されても、飲まれている様子でつくるものが違ってきます」。カウ

ンターのなかからはほとんど見えないテラス席のゲストの満足を思いやりながら、その手際の冴えと注意の厚みは途絶えることがないようだ。

四日目

イベントも残り 2 日になり、尾崎さんはいろいろなことを私たちに教えてくださる。名バーテンダーの特別講義がありがたい。カクテルに関する基本的なことから姿勢、目線、疲れない方法にまでおよび、どれも実践的である。無駄のない動きや何気ない仕草には、それぞれ意味があり、そのすべてがゲストへのサービスにつながっているとよくわかった。どれも勉強になることばかりだったが、やはり尾崎さんのサービスに対する姿勢の大切さが、身に染みて伝わってきた。

五日目

最終日、観季館でのイベントを終えて Bar ラジオもたいへんなにぎわいとなる。連日、たくさんのゲストが屋崎バーテンダーのカクテルを堪能された。5 日間だけの営業にもかかわらず、こんなにもたくさんの人を魅了する尾崎さんの存在と腕を肌で感じることができた。最終夜の Bar ラジオは名残を惜しむ人たちで、いつまでもにぎやかだ。尾崎さんは遅くまでお相手をして、快くサインをしてくださったり、ゲストの質問に楽しそうにお応えになっていた。

5 日間を通じて、尾崎さんから本当にたくさんの技術を教えていただき、同じカウンターに立たせてもらう事で素晴らしい経験をさせていただきました。サービスに対する心の大切さ、カクテルの味も、作る速さも、対応の仕方もすべてはたくさんのお客さまに楽しんでいただくため、と教わりました。日々バーテンダーとして精進すること、そしてその楽しさをあらためて知ることができました。ご来店をくださったゲストの皆さん、尾崎浩司さん、ありがとうございました。(二期倶楽部リキュールルーム・小林浩二)

尾崎さんの手さばきの一つ一つに、プロながらもつい見惚れてしまう。修練の積み重ねが磨いた凛とした手わざ。二期倶楽部のハーブも、粋なおもてなしに一役。

神宮前Barラジオは、名バーテンダー尾崎浩司さんと共に数々の物語を生み出した名店。観季館には、その空間がそっくり移設され、当時の面影を再現している。連夜、このような満席。重厚なカウンターで、カクテルを楽しみながら、尾崎さんの温かなおもてなしに包まれて過ごす格別の時間。

Barラジオのユーモラスなコースター。コースターにも、お酒の時間を楽しむ気分が溢れている。